



安全データシート (SDS)

1. 化学品及び会社情報

昭和化学株式会社
東京都中央区日本橋本町4-3-8
担当

TEL (03) 3270-2701
FAX (03) 3270-2720
緊急連絡 同上
改訂日 2024/01/30
SDS整理番号 08010220

製品等のコード : 0801-0220

製品等の名称 : ヒドラジン無水

推奨用途 : 試薬

参考: その他の用途 (当該製品規格に限定されない一般的な用途。規格により用途は相違。) ロケット燃料 など

使用上の制限 : 推奨用途以外の用途へ使用する場合は化学物質専門家等の判断を仰ぐこと



H₂N—NH₂

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性 引火性液体	: 区分3
健康に対する有害性	
急性毒性 (経口)	: 区分3
急性毒性 (経皮)	: 区分2
急性毒性 (吸入: 蒸気)	: 区分3
皮膚腐食性/刺激性	: 区分1
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	: 区分1
皮膚感作性	: 区分1
生殖細胞変異原性	: 区分2
発がん性	: 区分1B
生殖毒性	: 区分2
特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	: 区分1 (神経系、肝臓)、 区分3 (麻酔作用)
特定標的臓器毒性 (反復ばく露)	: 区分1 (呼吸器、腎臓、肝臓、副腎)
環境に対する有害性	
水生環境有害性 短期 (急性)	: 区分1
水生環境有害性 長期 (慢性)	: 区分1

注意喚起語: 危険

危険有害性情報

引火性液体及び蒸気
飲み込むと有毒 (経口)
皮膚に接触すると生命に危険 (経皮)
吸入すると有毒 (蒸気)
重篤な皮膚の薬傷・眼の損傷
重篤な眼の損傷
アレルギー性皮膚反応を引き起こすおそれ
遺伝性疾患のおそれの疑い
発がんのおそれ

生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い
神経系、肝臓の障害
眠気及びめまいのおそれ
長期又は反復ばく露による呼吸器系、腎臓、肝臓、副腎の障害
水生生物に非常に強い毒性
長期的影響により水生生物に非常に強い毒性

注意書き

【安全対策】

全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。
容器を密閉しておくこと。
容器を接地すること、アースをとること。
防爆型の電気機器、換気装置、照明機器などを使用すること。
火花を発生させない工具を使用すること。
静電気放電に対する予防措置を講ずること。
ミスト、蒸気、粉じん、煙、ガス、スプレーを吸入しないこと。
眼、皮膚又は衣類につけないこと。
取扱い後は、よく手を洗うこと。
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。
汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。
環境への放出を避けること。

【応急措置】

飲み込んだ場合：口をすすぐこと。無理に吐かせない。直ちに医師に連絡すること。
吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
直ちに医師に連絡すること。
皮膚（又は髪）に付着した場合：直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。
皮膚を流水又はシャワーで洗うこと。直ちに医師に連絡すること。
眼に入った場合：水で30分以上注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。直ちに医師に連絡すること。
ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師に連絡すること。
気分が悪い時は医師に連絡すること。
皮膚刺激又は発疹が生じた場合：医師の診察、手当を受けること。
汚染された衣類を直ちに全て脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。
漏出物を回収すること。

【保管】

湿気、日光を避け、容器を密閉し換気の良い冷暗所に施設して保管すること。

【廃棄】

内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

（注）物理化学的危険性、健康に対する有害性、環境に対する有害性に関し、上記以外の項目は、現時点で「区分に該当しない(分類対象外も該当)」又は「分類できない」である。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区分	：	化学物質
化学名	：	ヒドラジン無水 （別名）無水ヒドラジン、ヒドラジン、ジアザン （英名）Hydrazine anhydrous、Diazane、 Hydrazine (EC名称、TSCA名称)
成分及び含有量	：	ヒドラジン、 98.0%以上
化学式および構造式	：	H ₂ NNH ₂ 、 H ₄ N ₂ 、 構造式は上図参照(1ページ目)。
分子量	：	32.05
官報公示整理番号（化審法）	：	(1)-374
（安衛法）	：	公表化学物質（化審法番号を準用）
CAS No.	：	302-01-2
EC No.	：	206-114-9
危険有害成分	：	ヒドラジン

4. 応急措置

吸入した場合：直ちに医師に連絡する。
直ちに、被災者を新鮮な空気のある場所に移す。
被災者を毛布等でおおって体を保温し、呼吸しやすい姿勢で安静にする。
呼吸していて嘔吐がある時は、頭を横向きにする。
呼吸が止まっている場合、または呼吸が弱い場合には衣服を緩め、呼吸
気道を確保した上で人工呼吸（または酸素吸入）を行なう。
気分が悪い時は、医師の手当を受ける。

- 皮膚に付着した場合：直ちに医師に連絡する。
直ちに、汚染された衣類、靴などを脱ぐ。
速やかに、皮膚を多量の水と石鹸で洗う。
洗浄開始が遅れたり、洗浄不十分の場合は、皮膚障害のおそれがある。
皮膚刺激または発疹が生じた時は医師の手当を受ける。
汚染された作業衣は作業場から出さない。
汚染された衣類を再使用する前に洗濯する。
- 目に入った場合：直ちに医師に連絡する。
直ちに、清浄な水で30分以上注意深く洗う。その際、顔を横に向けてからゆっくりF水を流す。水道の場合、弱い流れの水で洗う。勢いの強い水で洗浄すると、かえって目に障害を起こすことがあるので注意する。
まぶたを親指と人さし指で広げ眼を全方向に動かし、眼球、まぶたの隅々まで水がよく行き渡るように洗浄する。
次に、コンタクトレンズを着用して固着していなければ除去し、洗浄を続ける。
眼の洗浄が遅れたり、不十分の場合は、眼の障害のおそれがある。
眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、治療を受ける。
眼刺激が消失しても、遅れて障害が現れることがあるので、必ず医師の診断を受ける。
- 飲み込んだ場合：直ちに、医師に連絡する。
口をすすぎ、うがいをする。無理に吐かせてはいけない。
吐かせると再びのどや食道を通り二重に刺激・損傷を受けることになる。
直にコップ数杯の牛乳や卵を飲ませて毒性を希釈する。
牛乳、卵がない時は、コップ数杯の水を飲ませ、体内で毒性を薄める。
嘔吐が自然に生じた時は、気管への吸入が起きないように身体を傾斜させる。
嘔吐後、再び水を飲ませる。
意識がない時は、何も与えない。もし、嘔吐が自然に生じた時は、気管への吸入が起きないように、頭を尻より下に身体を傾斜させ、肺への還流を防ぐ。嘔吐後、意識が戻れば、水を飲ませる。体の保温に努め、速やかに医師の診察を受ける。
気分が悪い時は、医師の診断、治療を受ける。
- 予想される急性症状及び遅発性症状：
吸入した場合：咳、灼熱感、頭痛、錯乱、嗜眠、吐き気、息切れ、痙攣、意識喪失
皮膚に付着した場合：吸収される可能性あり。
発赤、痛み、皮膚熱傷
眼に入った場合：発赤、痛み、かすみ眼、重度の熱傷
飲み込んだ場合：口やのどの熱傷、腹痛、下痢、嘔吐、ショック/虚脱。
他の症状については「吸入」の項を参照。

5. 火災時の措置

- 適切な消火剤：本品は、引火しやすい可燃性液体である。
粉末消火薬剤、水噴霧、泡消火薬剤、二酸化炭素
大火災の場合、空気を遮断できる泡消火剤が有効である。
- 使ってはならない消火剤：棒状放水（本品があふれ出し、火災を拡大するおそれがある。）
特有の危険有害性：極めて燃え易い、熱、火花、火災で容易に発火する。
加熱により容器が爆発するおそれがある。
火災によって刺激性、腐食性又は毒性のガスを発生するおそれがある。
屋内、屋外又は下水溝で蒸気爆発の危険がある。
- 特有の消火方法：引火点が低い（38℃）：散水以外の消火剤で消火の効果がない
大きな火災の場合には散水する。
危険でなければ火災区域から容器を移動する。
消火活動は、有効に行える最も遠い距離から、無人ホース保持具やモニター付きノズルを用いて消火する。
大火災の場合、無人ホース保持具やモニター付きノズルを用いて消火する。これが不可能な場合には、その場所から避難し、燃焼させておく。
消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。
- 消火を行う者の保護：消火作業の際は、適切な空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置：
漏洩区域は、関係者以外の立入りを禁止する。
漏洩エリア内に立入る時は、保護具を着用する。
風上から作業し、ミスト、蒸気、ガスなどを吸入しない。
皮膚、眼など身体とのあらゆる接触を避ける。
蒸気が多量に発生する場合は、水噴霧し蒸気発生を抑える。

- 環境に対する注意事項：
 回収、中和：密閉された場所に立入る時は、事前に換気する。
 ：河川、下水道、土壌に排出されないように注意する。
 ：乾燥土、砂や不燃材料で吸収し、密閉できる空容器に回収する。後で
 廃棄処理する。
 大量の場合、盛土で囲って流出を防止し、液面を泡で覆い密閉できる容器
 などに回収する。
- 封じ込め及び浄化の方法・機材：
 ：危険でなければ漏れを止める。
 漏洩エリア内で稼働させる設備・機器類は接地する。
- 二次災害の防止策：
 ：事故の拡大防止を図るため、必要に応じて関係機関に通報する。
 周辺の発火源を速やかに取除く。
 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

7. 取扱いおよび保管上の注意

- 取扱い
 技術的対策：
 ：裸火禁止、火花禁止、禁煙。
 酸化剤との接触禁止。
 引火点の38 以上では、密閉系、換気、および防爆型電気設備が必要。
 ミスト、蒸気、ガスの発生を防止する。
 身体とのあらゆる接触を避ける。
 指定数量以上の量を取扱う場合、法で定められた基準に満足する製造所、
 貯蔵所、取扱所で行なう。
 指定数量以上の危険物を貯蔵し、取り扱う場合は消防法に基づく許可が
 必要で、危険物貯蔵所に保管する。
 指定数量の1/5以上、1未満（少量危険物）の場合も、少量危険物貯蔵所
 に保管し、法の規制を受け、最寄の消防署に届出を行う必要がある。
 指定数量の1/5未満の危険物の貯蔵・取り扱いについては届出の必要は
 ない。
 炎、火花または高温体との接触を避ける。
 本製品を取扱う場合、必ず保護具を着用する。
- 局所排気・全体換気
 安全取扱い注意事項：
 ：防爆型の換気装置を設置し、局所排気又は全体換気を行なう。
 ：すべての安全注意を読み理解するまで取扱わない。
 屋外又は換気の良い場所でのみ使用する。
 周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。
 容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずるなどの
 取扱いをしてはならない。
 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしない。
 取扱い後はよく手を洗う。
 眼、皮膚、衣類につけない。
- 接触回避
 保管
 技術的対策：
 ：炎、火花または高温体との接触を避ける。
- 保管条件：
 ：保管場所は壁、柱、床等を耐火構造とする。
 保管場所は屋根を不燃材料で作るとともに、金属板その他の
 軽質な不燃材料でふき、かつ天井を設けない。
 保管場所の床は、危険物が浸透しない構造とするとともに、適切な
 傾斜をつけ、かつ、適切なためますを設ける。
 保管場所で使用する電気器具は防爆構造とし、器具類は接地する。
- 混触危険物質：
 ：不活性ガス中（通常、窒素充填）に保管。
 日光や高温を避ける。
 容器を密閉して換気の良い冷暗所に保管する。
 一定の場所を定めて、施錠して保管する。
 貯蔵する所には、「火気厳禁」の表示を行う。
 貯蔵する所には、赤地に白文字で「医薬用外毒物」の表示を行う。
 混触危険物質、食料、飼料から離して保管する。
- 容器包装材料：
 ：酸化剤（硝酸塩、塩素酸塩、過酸化物、過塩素酸塩など）、
 酸、多くの金属、金属の酸化物、多孔性物質
 ガラスなど

8. ばく露防止及び保護措置

- 管理濃度：
 ：設定されていない。
 （労働安全衛生法第28条第3項・基発第0331008号（平成18年3月31日）
 に基づく基準濃度として0.13mg/m³）
- 許容濃度（ばく露限界値、生物学的ばく露指標）：
 日本産衛学会 0.1ppm 0.13mg/m³
 ACGIH TLV-TWA 0.01ppm 経皮吸収性あり。
- 設備対策：
 ：この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置
 する。
 作業場には防ばく型の換気装置を設置し局所排気又は全体換気を行なう。

	引火点以上では、密閉系、換気および防爆型電気設備を使用する。 帯電を防ぐ(例えばアースを使用)。
保護具	
呼吸器の保護具	： 呼吸器保護具（防じんマスク、有機ガス用防毒マスク）を着用する。
手の保護具	： 保護手袋を着用する。不透性のネオプレン製のものが推奨される。
眼の保護具	： 保護眼鏡（普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型）を着用する。
皮膚及び身体の保護具	： 長袖作業衣を着用する。 必要に応じて保護面、保護長靴を着用する。
衛生対策	： この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしない。 取扱い後はよく手を洗う。 保護具は保護具点検表により定期的に点検する。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態（性状・色）	： 無色液体、油状発煙性液体（約20℃以下では白色結晶）。 吸湿性あり。
臭い	： 刺激臭（アンモニア様の臭気）
pH	： 強アルカリ性（水溶液）
融点	： 2
凝固点	： データなし
沸点	： 114
引火点	： 38（密閉式）
可燃性	： 引火性
爆発範囲	： 下限 1.8 vol% 上限 100 vol%
蒸気圧	： 1.4 kPa (20℃)、 1.91 kPa (25℃)
相対ガス密度（空気 = 1）	： 1.1
密度又は相対密度	： データなし
比重	： 1.0036 (25/4℃)
20℃での蒸気/空気混合気体の相対密度(空気 = 1)	： 1.00
溶解性	： 水に極めて溶けやすい(混和しやすい)。 エタノールにわずかに溶ける。
オクタノール/水分配係数	： log Pow = -2.07
発火点	： 24～270 （さびた鉄の表面での24℃からガラス表面での270℃まで さまざまである。）
分解温度	： データなし
粘度	： 0.0009 mm ² /s (20℃)
動粘度	： データなし
粒子特性	： データなし
GHS分類	
引火性液体	： ICSC（1999）による引火点は38（密閉式）であり、区分3とした。 引火性液体および蒸気（区分3）

10. 安定性及び反応性

安定性（反応性・化学的安定性）	： 不活性ガス中に保管していても不安定である。 空気や酸素がなくとも分解する。 吸湿性がある。
危険有害反応可能性	： 分解すると、アンモニア、水素および窒素酸化物を生じ、火災 および爆発の危険をもたらす。 強還元剤であり、酸化剤と激しく反応する。 本品は塩基性が強く、酸や多くの金属と激しく反応し、火災 および爆発の危険をもたらす。 金属酸化物たとえば水銀、銅などの酸化物および多孔性酸化物と 接触すると炎を発生して分解する。水と水加物を作る。
避けるべき条件	： 熱、日光、光、裸火、静電気、スパーク
混触危険物質	： 酸化剤（硝酸塩、塩素酸塩、過酸化物、過塩素酸塩など）、 酸、多くの金属、金属の酸化物、多孔性物質
危険有害な分解生成物	： アンモニア、水素、窒素酸化物

11. 有害性情報

急性毒性	： 経口 ラット LD50 = 60mg/kg (DFGOT vol.1 (1989)) 飲み込むと有毒（経口）（区分3） 経皮 ウサギ LD50 = 91mg/kg (IUCLID (2000)) 皮膚に接触すると生命に危険（経皮）（区分2） 吸入（蒸気）ラット LC50 = 0.75 mg/L (570ppm) (4時間)
------	--

	(DFGOT vol.1 (1989)) 吸入すると有毒（蒸気）（区分3）
皮膚腐食性/刺激性	吸入（ミスト）分類できない。 ウサギを用いた皮膚刺激性試験の結果、「刺激反応及び死亡がみられた」ことから、区分1とした。 重篤な皮膚の薬傷・眼の損傷（区分1）
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	ウサギを用いた眼刺激性試験の結果、「重度の刺激性がみられた」ことから、区分1とした。 重篤な眼の損傷（区分1）
呼吸器感受性	分類できない。
皮膚感受性	産衛学会勧告の既存分類にて、分類されている（産衛学会勧告（2004））ことから、区分1とした。
生殖細胞変異原性	アレルギー性皮膚反応を引き起こすおそれ（区分1） 経世代変異原性試験（優性致死試験）で陰性、生殖細胞in vivo 変異原性試験なし、体細胞in vivo 変異原性試験（マウス赤血球を用いた小核試験）で陽性、生殖細胞in vivo 遺伝毒性試験なしである（CERI・NITE有害性評価書 No.73（2004）、EHC 68（1987））ことから、区分2とした。 遺伝性疾患のおそれの疑い（区分2）
発がん性	ヒトでは小さな集団の疫学研究のみで腫瘍発生の増加の報告はないが、実験動物ではラット又はハムスターへの経口（飲水）投与で肝臓腫瘍の増加、ラットの吸入ばく露で鼻腔のポリープ様腺腫の増加の報告がある（IARC 71（1999））。当初、IARCはヒドラジンの発がん性はヒトで不十分な証拠、実験動物で十分な証拠があるとしてグループ2Bに分類していたが、最近グループ2Aに引き上げた（IARC 115（in prep., Access on June 2016））。 他機関による分類結果としては、EPAがB2（probable human carcinogen: 区分1B相当）に（IRIS（1988））、NTPがR1に（NTP RoC（13th, 2014））、EUがCarc. 1Bに（ECHA（2011））、ACGIHがA3に（ACGIH（7th, 2001））、日本産業衛生学会が第2群Bに（産衛学会勧告（2015））、それぞれ分類している。 以上の結果から、区分1Bとした。 発がんのおそれ（区分1B）
生殖毒性	マウスの発生毒性試験で、一般毒性がみられる用量で児に外脳症がみられる（CERI・NITE有害性評価書 No.73（2004））ことから、区分2とした。 生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い（区分2）
特定標的臓器毒性 （単回ばく露）	ヒトについては「錯乱、し眠、不穏」、「意識喪失、潮紅、不規則な凶暴行為その後運動失調、眼振、振動感覚の低下、腕・脚部のチクチク感」、「AST・LDH・総ビリルビンの上昇」（EHC 68（1987））、「肝臓毒性に関連した酵素値の大幅な上昇」（CERI・NITE有害性評価書 No.73（2003））等の記載があることから、神経系、肝臓が標的臓器と考えられた。また、「し眠」（EHC 68（1987））がみられたことにより麻酔作用があると考えられ、区分3に分類される。以上から、分類は区分1（神経系、肝臓）、区分3（麻酔作用）とした。 神経系、肝臓の障害（区分1） 眠気又はめまいのおそれ（区分3）
特定標的臓器毒性 （反復ばく露）	ヒトについては、「黄疸、肺炎、クレアチニン量の上昇、尿蛋白、血尿、限局性肝細胞壊死、重度腎炎、尿細管壊死、糸球体腎炎」（CERI・NITE有害性評価書 No.73（2003））、「肺X線検査による胸水及び影、血中ビリルビン量の上昇、死後剖検で肺炎、肝臓細胞の損傷」（EHC 68（1987））等の記載、実験動物については、「肝臓胆管増生、副腎の変性、鼻粘膜の炎症、鼻粘膜上皮の壊死と鱗屑化、過形成、扁平上皮化生」（CERI・NITE有害性評価書 No.73（2003））の記載があることから標的臓器は肝臓、呼吸器、腎臓、副腎と考えられる。なお、実験動物に対する影響はいずれも区分1に相当するガイダンス値の範囲でみられた。以上から、分類は区分1（肝臓、呼吸器、腎臓、副腎）とした。 長期又は反復ばく露による呼吸器、腎臓、肝臓、副腎の障害（区分1）
誤えん有害性	分類できない。

12. 環境影響情報

生態毒性

水生環境有害性 短期(急性)：甲殻類（オオミジンコ）48時間 EC50 = 160 µg/L

	(環境省リスク評価第1巻、2002)
	水生生物に非常に強い毒性(区分1)
水生環境有害性 長期(慢性) :	急性毒性が区分1、生物蓄積性が低いと推定されるものの (log Kow = -2.07 (PHYSPROP Database (2005))), 急速分解性がない(BODによる分解度:2% (既存化学物質安全性 点検データ))ことから、区分1とした。 長期的影響により水生生物に非常に強い毒性(区分1)
残留性・分解性 :	低分解性。BOD分解度=2%
生物蓄積性 :	低濃縮性。Log Kow = -2.07
土壤中の移動性 :	データなし
オゾン層への有害性 :	本品はモントリオール議定書の附属書にリストアップされていない ため、分類できないとした。

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物	: 関連法規ならびに地方自治体の基準に従って廃棄する。 都道府県知事などの許可(収集運搬業許可、処分業許可)を受けた 産業廃棄物処理業者に、産業廃棄物管理票(マニフェスト)を交付し て廃棄物処理を委託する。 廃棄物の処理にあたっては、処理業者等に危険性、有害性を充分告知 の上処理を委託する。 本製品を含む廃液及び洗浄排水を直接河川等に排出したり、そのまま 埋め立てたり投棄することは避ける。
汚染容器及び包装	: 内容物により汚染された容器及び包装材は、関連法規の基準に従って 適切に処分する。 空容器を廃棄する場合は、内容物を除去した後、産業廃棄物処理業者 に処理を委託する。

14. 輸送上の注意

緊急時応急処置指針番号 : 139

国際規制

海上規制情報(IMDGコード/IMOの規定に従う)

UN No. : 2029
 Proper Shipping Name : HYDRAZINE, ANHYDROUS
 Class : 8 (腐食性物質)
 Sub Risk : 3 (引火性液体)、6.1 (毒物)
 Packing Group : I
 Marine Pollutant : Yes (該当)
 Limited Quantity : -

航空規制情報(ICA0-TI/IATA-DGRの規定に従う)

UN No. : 2029
 Proper Shipping Name : Hydrazine, anhydrous
 Class : 8
 Sub Risk : 3、6.1
 Packing Group : I

旅客機 積載禁止

国内規制

陸上規制情報(消防法、毒劇法、道路法の規定に従う)

海上規制情報(船舶安全法/危険物船舶輸送及び貯蔵規則/船舶による危険物の運送基準等
を定める告示に従う)

国連番号 : 2029
 品名 : ヒドラジン (無水物)
 クラス : 8
 副次危険 : 3、6.1
 容器等級 : I
 海洋汚染物質 : 該当
 MARPOL73/78付属書II及びIBCコードによるばら積み輸送の有害液体物質の汚染分類
: 非該当

少量危険物許容量 : -

航空規制情報(航空法/航空法施行規則/航空機による爆発物等の輸送基準を定める告示に
従う)

国連番号 : 2029
 品名 : ヒドラジン (無水物)
 クラス : 8
 副次危険 : 3、6.1
 等級 : I
 少量輸送許容物件
許容量 : -

特別の安全対策：
 旅客機 積載禁止
 旅客機以外の航空機 2.5L
 危険物は当該危険物が転落し、又は危険物を収納した運搬容器が落下し、転倒もしくは破損しないように積載する。
 危険物又は危険物を収納した容器が著しく摩擦又は動揺を起こさないように運搬する。
 危険物の運搬中危険物が著しく漏れる等災害が発生するおそれがある場合には、災害を防止するための応急措置を講ずると共に、もよりの消防機関その他の関係機関に通報する。
 輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。
 食品や飼料と一緒に輸送してはならない。
 他の危険物や燃えやすい危険物に上積みしない。
 他の危険物のそばに積載しない。
 車輛等による運搬の際にはイエローカードを運搬人に保持させる。

15. 適用法令

労働安全衛生法：
 危険物・引火性の物（施行令別表第1第4号）
 強い変異原性が認められた化学物質
 （法第57条の5、労働基準局長通達）
 がん原性物質（則第577条の2）
 皮膚等障害化学物質等（則第594条の2）
 健康障害防止指針公表物質
 （法第28条第3項・厚労省指針公示）
 令和6年4月1日から、
 名称等を表示すべき危険物及び有害物
 （政令番号 第459号「ヒドラジン及びその一水和物」、
 対象重量%は 1）
 名称等を通知すべき危険物及び有害物
 （政令番号 第459号「ヒドラジン及びその一水和物」、
 対象重量%は 0.1）
 （別表第9）
 ただし、令和6年3月31日まで、
 名称等を表示すべき危険物及び有害物
 （政令番号 第459号「ヒドラジン」、対象重量%は 1）
 名称等を通知すべき危険物及び有害物
 （政令番号 第459号「ヒドラジン」、対象重量%は 0.1）
 （別表第9）
 労働基準法：
 疾病化学物質
 （法第75条第2項、施行規則第35条別表第1の2第4号）
 化審法：
 優先評価化学物質 No.2（官報公示日：2011/04/01）
 評価対象；人健康影響/生態影響
 旧第二種監視化学物質 No.367（官報公示日：2000/09/22）
 旧第三種監視化学物質 No.39（官報公示日：2006/07/18）
 消防法：
 危険物 第4類引火性液体 第二石油類 水溶性、指定数量2000L、
 危険等級
 毒物及び劇物取締法：
 毒物「ヒドラジン」（指定令第1条第23号の2）、包装等級
 化学物質排出管理促進法（PRTR法）：
 ・分類 「第1種指定化学物質」
 ・政令番号 「1-379」（ただし、R5年3月31日まで「1-333」）
 ・管理番号 「333」
 ・政令名称 「ヒドラジン」
 船舶安全法：
 腐食性物質（危規則第2.3条危険物告示別表第1）
 航空法：
 腐食性物質（施行規則第194条危険物告示別表第1）
 大気汚染防止法：
 有害大気汚染物質（中環審第9次答申の171）
 水質汚濁防止法：
 指定物質（施行令第3条第3項）
 「ヒドラジン」
 輸出貿易管理令：
 ・キャッチオール規制（別表第1の16項）
 HSコード：2825.10
 第28類 無機化学品
 ・輸出統計番号（2024年1月版）：2825.10-000
 「ヒドラジン及びヒドロキシルアミン並びにこれらの無機塩
 並びにその他の無機塩基、金属酸化物、金属水酸化物及び
 金属過酸化物
 -ヒドラジン及びヒドロキシルアミン並びにこれらの無機塩」
 ・輸入統計番号（2024年1月1日版）：2825.10-030
 「ヒドラジン及びヒドロキシルアミン並びにこれらの無機塩」

並びにその他の無機塩基、金属酸化物、金属水酸化物及び
金属過酸化物
- ヒドラジン及びヒドロキシルアミン並びにこれらの無機塩
- 1 無水ヒドラジン」

16. その他の情報

(注) 本品を試験研究用以外には使用しないで下さい。

取扱注意事項 :

本製品の取扱いは毒物劇物取締法の規定に従い、購入、保管、使用及び廃棄には細心の注意を払うこと。毒物劇物取扱等の責任者は、必要に応じ取扱う者に対し労働安全衛生、漏洩防止、緊急時の対応、環境影響、使用記録、保管庫施設、紛失盗難防止などについて教育、訓練を実施し、事故の予防に努めること。

参考文献 :

化学物質管理促進法PRTR・MSDS対象物質全データ	化学工業日報社	
労働安全衛生法MSDS対象物質全データ	化学工業日報社(2007)	
化学物質の危険・有害便覧	中央労働災害防止協会編	
化学大辞典	共同出版	
安衛法化学物質	化学工業日報社	
産業中毒便覧(増補版)	医歯薬出版	
化学物質安全性データブック	オーム社	
公害と毒・危険物(総論編、無機編、有機編)	三共出版	
化学物質の危険・有害性便覧	労働省安全衛生部監修	
Registry of Toxic Effects of Chemical Substances	NIOSH CD-ROM	
GHS分類結果データベース	nite (独立行政法人 製品評価技術基盤機構)	HP
GHSモデルMSDS情報	中央労働災害防止協会 安全衛生情報センター	HP

このデータは作成の時点における知見によるものですが、必ずしも十分ではありませんし、何ら保証をなすものではありませんので、取扱いには十分注意して下さい。なお、この安全データシート(SDS)はJIS Z 7253:2019に準じ作成しています。